



市民が主役となる地域防災対策への取り組み



工学部 社会デザイン工学科 教授

渡辺 浩

分野 社会

キーワード 災害対応、自主防災組織、地域防災計画

概要

地震、豪雨等、近年も巨大災害に悩まされている。我が国ではこれまでインフラの強化に取り組んできており防災力の向上を見ている。しかしながら巨大災害から人命や財産を守ることはできていない。また、被災時には住民自身の避難行動や情報伝達、リテラシーが大きな力となるが、それが発揮できる環境は醸成されていない。

インフラ強化による防災対策は行政主導により一定の成果を挙げてきたが、市民が主体の防災対策は簡単ではない。そこで本研究では、実際に自主防災活動に取り組む住民、地域リーダーの立場を踏まえた実効力のある地域防災対策の検討を進めている。

特徴、効果、独創的な点

- 地域防災に関する研究は、行政側の目線のものが多いが、本研究では住民が主体的に取り組むものである。
- 住民が主体的に関わる自主防災組織を作ることができる。

適用分野、用途

- 自主防災組織の基盤強化
- 地域防災計画のグレードアップ

論文、知的財産情報等

- 「平成28年熊本地震における被災地の物資不足と近隣市民による物資支援の事例」：第72回土木学会年次学術講演会, IV-004, 2017.9.
- 「避難指示発令の事例から見た災害対応の現状と問題点の考察」：第71回土木学会年次学術講演会, IV-111, 2016.9.